

～スイカの苗の健苗育成への取り組み～

とうこん
新商品「鬮根[®]242」
の導入事例紹介



雪印種苗（株）
 畑作園芸本部 営業課

1. はじめに

今年1月から育苗用の液肥「鬮根242」が新発売となりました。

そこで今回は昨年の現地試験段階からお世話になっている長野県波田町のスイカ生産者2名の農家の方々の苗（断根接木苗）への効果について取り上げました。

ここ波田町は長野県のほぼ中央に位置し、標高は500～600m、雨量も少なく空気が乾燥しており、さらに気温の日較差が大きいいため、病気の発生が少なく、糖度の高い品質良好なスイカの栽培に適している産地です。

2. 「鬮根[®]242」の導入事例①

（株式会社むぎわらぼうし代表取締役 大月征典さんのケース）

大月さんがスイカの栽培を始めて12年目、父親の代から数えると足かけ35年に渡りスイカの栽培を手がけております。現在スイカは2.8haを作付けし、収穫は7月中旬から8月一杯となります。そのほかにリンゴ、水稲も作付けしています。

今回ご紹介します「鬮根242」は、育苗期の根の生育を良くすることが特長ですが、大月さんは昨年の試作品の段階から現地評価試験に参加していただきました。大月さんの目的は断根接木を挿した後、少しでも早く活着させることが目的でしたが、まず試験は穂木の播種後ポリ鉢に1000倍希釈液を施用した区と無処理区を設け試験をしていただきました。その結果「鬮根242」

の効果が認められ、接木苗を挿したベッドにも同様の施用方法で実施していただきました。挿した後、1週間くらいから根量に差が出ており、育苗ハウス内の温度が一律でないことを考慮しても、効果があったとの評価をいただきました。

今年は、昨年同様に穂木の播種後のポリ鉢と接木苗を挿す前のポリ鉢に「鬮根242」を1000倍希釈液で根周りに充分行き渡る水量で施用していただき、これにより活力ある穂木、または断根接木苗の早期の根張りが可能となりました。

大月さんは生産だけではなく、消費者の嗜好性や目を引くパッケージデザインなど常にマーケティングをおこなひ、また土づくりの面から連作障害回避策として、酪農家向けにデントコー

ンを作付けすることで耕畜連携を行っております。

3. 「鬮根[®]242」導入事例②

（南原ファーム代表杉山彰英さんのケース）

杉山さんも昨年の試作品による評価試験に参加協力をいただきました。杉山さんは昭和48年ごろからスイカ栽培に取り組み、スイカ2haのほか水稲を作付けしています。

詳しくは南原ファームのHPをご覧くださいのですが、有機質肥料を重点に施用し、さらに食品成分を用いた虫害の回避など安全・安心を心がけております。またHPには鬮根の効果写真も掲載されています。

杉山さんの場合、スイカの断根接木苗はご自分で定植する苗の他に委託を



（株）むぎわらぼうし 代表取締役 大月 征典氏

受けて生産しており、数品目合わせて4万鉢もの苗生産を行っています。今年もスイカ苗に「鬮根242」を使い、ほぼ100%の苗立て率で育っていました。

「鬮根242」の使い方は接木2~3日前に穂木に500~1000倍希釈で施用して、さらに接木の時点で穂木と台木にも施用しています。杉山さんもやは

り挿した後、いかに根を早く出させるかがポイントに据えており、その点においては接木前に「鬮根242」を施用することで植物体に活力を持たせ、接木後は乾きによるしおれを抑えるための水分補給として「鬮根242」の複数回施用をおこなっています。その結果、根量も多くなりたいへん満足していただ

いています。

その他杉山さんは接木前の穂木、台木の樹液濃度の管理をブリックス糖度(brix)で行い、これによる濃度差も接木には重要とのことでした。今後はこれらに「鬮根242」がどのように関与しているか興味を持たれるところで



南原ファーム代表 杉山 彰英 氏



杉山氏のスイカ苗の良好な根鉢の状態

とうこん
「鬮根®」
新発売



スノーグローエース・ジャックスパワー
(液肥シリーズ)

SS-374アミノ酸液肥
(保証成分3%、P3%、K2%)



作物のストレス時に必要な
アミノ酸II遊離型プロリン高含有

スノーグローエース・ジャックスパワー
(植物活力資材)